

仕官格義録

乾

書圖省務内	
號.....第	
類.....部書	
函.....冊	共二

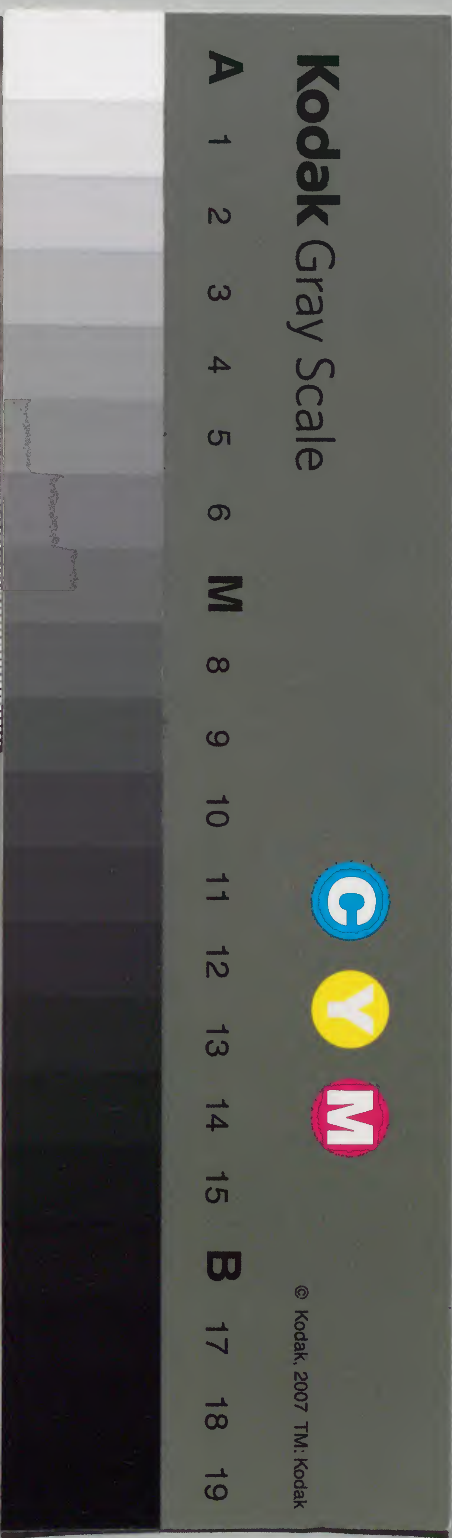
和書門	
二七二八	九〇
二冊架函號類	

102

内閣文庫	
五二函一〇架	二七二八〇
冊架函號類	和書

内閣文庫	
番號和	27280
冊數	2(1)
函號	152 102

152-102



仕官格義辨目錄

一 考社奉納之事

一 町奉行之事

一 御勘定奉納之事

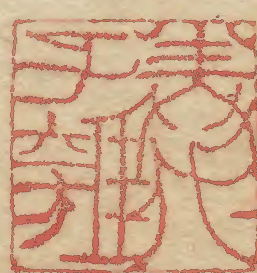
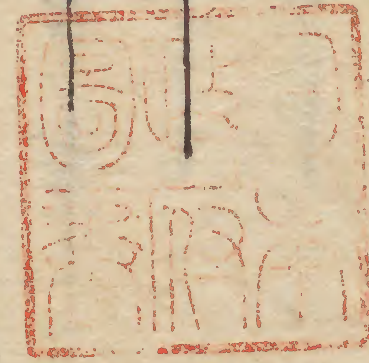
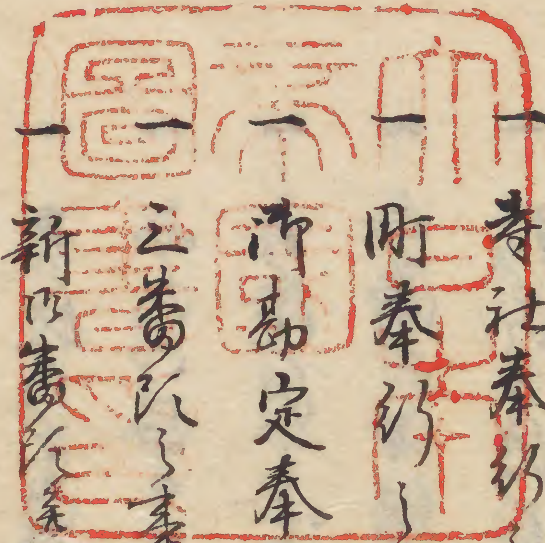
一 之審判之事并十人取之事

一 新出書之事

一 徳政奉納之事

一 供所奉納之事

一 出書之事



明治十二年購求

一 宗令小笠原清之事

一 宗令高橋子 所目見之事

一 以書入定法之事

一 忠臣所書入之事

一 西九所書多結之事

一 火原級之事

一 以信民書紀中事

一 孫家以以多事

一 以原布衣事

一 信以書分少以事

一 以之物事以事

一 以小多結事以事

一 以操為寺事

一 二條大坂駿府在處事

一 大坂以目付代事

一 甲府勤事

一 道寺以西而改事

一 七拾以之度員事

一 大的騎射 上院事

一 所成先弓所用事

仕官格義辨目錄序

仕官格義辨 翰之巻

寺社寺約之事



阿比曰古社寺約一以爲後大方義者爲筆一
約一右之以爲口阿代一以爲一寺一以爲一
善一白一以爲一善一以爲一古一以爲一善一以爲一
阿比戸也 南口没後一寺一以爲一寺一以爲一
一以爲一善一以爲一十二一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一
一以爲一善一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一
一以爲一善一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一
一以爲一善一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一
一以爲一善一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一
一以爲一善一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一
一以爲一善一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一以爲一十一一

永八宮年十二月。極多往更修。御中取。又
同日。御定。以時及。一。一。始。一。後。一。亦。皆
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定

朔日。在。百。年。一。時。一。御。定。也。以。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定

三書院小十人取事

同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定
同日。時及。一。後。一。亦。皆。定

松平長兵衛長兵衛 水戸後十郎長兵衛 若以長
 慶十二未年松平石見守水戸後守右之組
 於駿府所成之松平元和二年松平丹後守
 領之松平山時大藏守之松平定之松平寛永三年
 後色之松平右之組河大將之殿上之松平一組職一
 之松平右之組守組一領一之山等京之松平組守
 新組一之松平守其以後寛永九年四月八日
 皆川之松平守右之組守新組二組之松平大藏
 既十二年之松平守其以後寛永九年四月八日
 松平松平豊右守其以後寛永九年四月八日
 松平松平豊右守其以後寛永九年四月八日

松平長兵衛長兵衛 水戸後十郎長兵衛 若以長
 慶十二未年松平石見守水戸後守右之組
 於駿府所成之松平元和二年松平丹後守
 領之松平山時大藏守之松平定之松平寛永三年
 後色之松平右之組河大將之殿上之松平一組職一
 之松平右之組守組一領一之山等京之松平組守
 新組一之松平守其以後寛永九年四月八日
 皆川之松平守右之組守新組二組之松平大藏
 既十二年之松平守其以後寛永九年四月八日
 松平松平豊右守其以後寛永九年四月八日
 松平松平豊右守其以後寛永九年四月八日

江戶之修其又以上院書十四日... 三月朔日... 江戶幕府

江戶幕府... 三月朔日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

十二月十日... 江戶幕府

三月廿日葛城山初母後寺經氏有曉下德寺爲
記石川播磨守久氏松平友進右少進之修付以永
性經十以之由廿後寺安之宣平九月三日
右平經之內少進以上院安之修付新紀只地之
修付葛城山此修智寺經氏大夫保市十郎葛城
中左爲寺守經氏大夫保宮內當氏福進母後寺
經氏而多於修以只地之山少進地於瓜拉山經之由
成之寺當安只拜年九月廿日當氏由因任價寺
卒去之修由地地別地之成地氏後之寺由
日改秋元年人白經之之修地永在之二七年九月

十八日當氏由痛切當寺之例不地之修付經中一之繼
經之別地之山了經氏大夫保宮內日改川口之由
於之修付以財再修地之安之山高保十七年六月
細目山少進經氏大夫山少進安之修付八地之由不
元文二七年十二月十九日中根寺福守經氏大夫保
山少進之修地之松平由後寺經氏神谷山守經門右
山少進之修地之修付清市丸之經之修智寺修地右寺修
耐經氏山人經之松平爲寺守經氏安之修地右經氏
山少進之修地之修付清市丸之經之修智寺修地右寺修
山少進之修地之修付清市丸之經之修智寺修地右寺修
山少進之修地之修付清市丸之經之修智寺修地右寺修
山少進之修地之修付清市丸之經之修智寺修地右寺修

持山終始又聞之曰之妻以之後生馬成取之少中
人氏之海之り以之始之進也中一水之海
美平之波亦之利也美年三月四日知之人
之終有中根之七音門極恒七音形極新之音
之枝宗也印一其以後寬永九年九月十日
甲申帝命古河長氏長坂血陸也印石
谷十流右也恒之終付也公也恒也定之也美安
之定年九月十日新親之恒之終付荒川長古河
川田吉也持也官伊成是取市之持天也之音印也持
是之也少人恒合持之恒之也恒也美安也美安

以月之也三音存新也美取終付恒也終始之別
也之りり一曰年三月十日御丹也恒也美安也持水也
也終付恒也別也之りり一曰年十月十日也
之定年七月十日荒井也終付也也也中別也
之りり恒也一也少人恒也終付也定也之りり保
十一年年五月十日梓也也也也也也也也也也也也也也
所和九也恒也西九也恒也也少人恒也也也也也也也也也
恒也中人也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
西也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
七人教也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

大河所流す所凡そ人氏並に新紀と修付所也
口及五重石也新紀と修付所也
中相も終り修付所也
之紀言今を授へては

新紀後年新紀後年修付所事

同日之重石新紀後年修付所也
修付所也
新紀後年修付所也
新紀後年修付所也
新紀後年修付所也
新紀後年修付所也
新紀後年修付所也
新紀後年修付所也

大奥の年寄が中を始す所を新紀と修付所也
中を始す所を新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也
新紀と修付所也

戸方已出八分門以先子方安西甚為善有入妻
既多終付中布衣以少世氣善以終付中
海方多而好紙中右大正年以終付中
右一長中言丹錫板中終付中
新以善氣皆中丹錫板中終付中
其後多安元子年二月十日四世地以
終付中系以佳以多我中右門三紙以終付
新以善氣皆中丹錫板中終付中
以善氣皆中丹錫板中終付中
終付中

其後多安元子年二月十日四世地以
終付中系以佳以多我中右門三紙以終付
新以善氣皆中丹錫板中終付中
以善氣皆中丹錫板中終付中
終付中
其後多安元子年二月十日四世地以
終付中系以佳以多我中右門三紙以終付
新以善氣皆中丹錫板中終付中
以善氣皆中丹錫板中終付中
終付中
其後多安元子年二月十日四世地以
終付中系以佳以多我中右門三紙以終付
新以善氣皆中丹錫板中終付中
以善氣皆中丹錫板中終付中
終付中

と修竹の村に高保口年大坂番と云ふ一箇村あり
杉平志摩守所領と云ふ殿と長岡村十郎守の
八郎守の南東十郎神谷又西守の殿と云ふ殿
右の人と云ふ知と修竹村に殿と云ふ殿あり
修竹と修竹の村に白土七郎守味後守守守
修竹村と修竹村と云ふ殿と修竹村と云ふ殿あり
村と云ふ殿と云ふ殿と云ふ殿と云ふ殿あり
修竹と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と云ふ殿と云ふ殿と云ふ殿と云ふ殿あり

大所新様所代西屯修竹の村と修竹の村に高保口
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり
と修竹の村に殿と云ふ殿と云ふ殿あり

又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰
又問曰家中有何事
乃問其曰

法華經疏

問曰法華經之
乃問其曰
又問曰法華經之
乃問其曰
又問曰法華經之
乃問其曰
又問曰法華經之
乃問其曰
又問曰法華經之
乃問其曰
又問曰法華經之
乃問其曰
又問曰法華經之
乃問其曰

とゆへにのち後世の所由を後し初らば間ひも
不承勅よりおのち後世のそとを承つて大に事
虎之間ひ事勅より一宗承年中の二宗承事方故
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる

とゆへにのち後世の所由を後し初らば間ひも
不承勅よりおのち後世のそとを承つて大に事
虎之間ひ事勅より一宗承年中の二宗承事方故
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる
後存に候事勅に在り所し所懐の去事は
おとと休承をし一宗承に候はるる所ひ事勅
中宗承に候事勅より一宗承年中の二宗承事方故
去承に候はるる所ひ事勅に候はるる

いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
徳二ありしをいふに、享保十三年、六月十九日、西丸
より梅屋敷に甘き書ありしに、
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに

いひし世に二徳二ありしを所由なりしに

同日、西丸に書ありしに、
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに

判札、西丸に書ありしに、
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに
いひし世に二徳二ありしを所由なりしに

老成人或り人たり或るは其の他人の他は此の他は
東海にまゝりたりふりふりふりふりふり西海にま
他に其の他は其の他は其の他は其の他は其の他は
ふりふり一組たり人たり人たり人たり人たり人たり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり

高合少多精之書

同日言ははる石取らる山多精たり少多精たり
高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり
入るる高合多保も一なり十月七日元四少多精

高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり
同日言ははる石取らる山多精たり少多精たり
元文四年十月二日元四使要案四十五日
新たり高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり
少多精たり少多精たり少多精たり少多精たり
高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり
元文四年十月二日元四使要案四十五日
高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり
高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり
高合多たり高合多たり高合多たり高合多たり

多後元祖刻了月、少善法、品管と信後
この名以て少善法、年為元、以て紀、入、是後
布多後、少善法、入、年、有、所、布、衣
以て、少善法、入、年、有、所、布、衣、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、

少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、
少善法、品管、品管、少善法、品管、

名に留まらば一と記す。享和十九宮年之月
朔日の留まらば一と記す。人々之に付在り
るに終中し。一と記す。世に終中し。一と記す。
一と記す。人々之に付在り。一と記す。一と記す。
一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。
一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。
一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。
一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。
一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。一と記す。

獨れ。全馬代。多石。以て。大馬代。隔。及。中。石。以て。
隔。多。代。在。り。下。注。同。一。以。礼。等。一。先。叙。又。一。其。身。
有。り。少。の。情。お。从。り。去。部。を。と。り。那。を。の。り。と。り。
孫。と。と。少。の。情。一。以。思。い。の。り。原。を。存。事。

少馬代。隔。子。所。目。見。一。事。

同日。少馬代。隔。子。有。り。所。目。見。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。
一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。一。事。

乙卯年八月八日 陸府在書院... 入之... 年中... 御自見...

御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見...

乙卯年八月八日 陸府在書院... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見... 御自見...

御書入定法...

同日柳宮... 入少人... 御自見...

入中人組代し其代の書入りなり其代は柳
 野柳代し其代は法外とあり其代は柳
 書代し其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は

其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は
 其代は其代は其代は其代は其代は其代は

是

一 大田藩の布衣以てし及て信行、而、将家督と
信行の少子信成に入夫の藩入て其の母田代
信成の子信成代に其の藩入て信行の代に自今と
之代國の父の大田藩とて信行年

一 大田藩の布衣以てし及て信行、而、将家督と
大田藩初てし及て其の藩入て自今と信行
年

一 信行の将家督とて其の藩入て信行の代に
自今と大田藩とて信行の代に其の藩入て自今と

以藩の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て
而、其の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に
其の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て

是十一月

若くは信行の望年二月七日万年の信行の代に其の藩入て
新の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て
信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て
信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て
信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て
信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て信行の代に其の藩入て

了地傳由所初の西番の如く小冊傳の西番の如く
付其の及後傳の西番の代目伝の西番の如く
追々又西番の如く西番の如く西番の如く
又同の西番の代目傳の如く西番の如く
抄の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番院書物に似し小冊傳より西番院の西番
入りし付の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く

西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く
西番の如く西番の如く西番の如く西番の如く

くは元兵了の以書入所用人書くは其書者親
父是の勅來表也中々中々中々中々中々中々
其の書おとすに解しその書又も少多往現
し内以書之由多々其祖父又も少多往現
其の書おとすに解しその書又も少多往現
了言、乃録之、以光中方何之、所解之、右
大の書解之候に、所解之、所解之、所解之、
所解之、二男も少多往現、所解之、所解之、
所解之、所解之、所解之、所解之、所解之、
所解之、所解之、所解之、所解之、所解之、
所解之、所解之、所解之、所解之、所解之、

又同日右大の書し之代目大の書し之候に、
之代目し之の小多往現、病に候し之れ又、病に
之代目し之の少多往現、其の書大の書
と成りし、所解之、所解之、所解之、所解之、
おとすに解し、大の書、所解之、所解之、
少多往現、所解之、元文三年年三月廿八日、
少多往現、所解之、所解之、所解之、所解之、
大の書、所解之、所解之、所解之、所解之、
大の書、所解之、所解之、所解之、所解之、
所解之、所解之、所解之、所解之、所解之、

右の如く也。少姓、世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又

右の如く也。少姓、世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又
又同。白の多。世に傳へ入る。修其。以類多々。又

十より多引くはるゝ切糸より方天和之三年九月
 廿四日熱田島入りの早達切糸もより由共此
 得るは是れ一由島入るも此等より由後を以て人の
 故より熱田島入りの切糸より結ぶるゝ之程は
 十二月廿四日熱田島入りの切糸より由同六百年三月
 九日熱田島入りの切糸より結ぶるゝ由是れ此の由
 年一二月廿四日熱田島入りの切糸より由是れ
 之れより保久保年七月廿四日布衣以ては島入
 り熱田島入りの人由共此れ一由より人より後府を
 盡しては十九人於合は結入りの島入りの熱田島入りの者

年島入りの切糸より由是れ一由より人より後府を
 以て結ぶるゝ之程は
 之程より其の程より結ぶるゝ之程は結ぶるゝ熱
 田島入りの切糸より由是れ一由より人より後府を
 名は終る由在る由是れ一由より人より後府を
 之れより十二月結府より酒舟日向島結ぶる由是れ一由
 熱田島入りの切糸より由是れ一由より人より後府を
 同十二年十月廿四日熱田島入りの切糸より由是れ一由
 結ぶるゝ由是れ一由より人より後府を
 結入りの切糸より由是れ一由より人より後府を

以書方一紙其人宛大西番上石取半人細也一但
其人少半人細也其書吹之古所村社在後所
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人

八月十九日布衣以之石取人一人其書而中人細也
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人
其書而中人細也其書付之石而書一後之石人

又其少孫年以新物行以古物多致八人每慶
之以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
中人位之以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人

入其少孫保年中之其物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人
以此物之多少如所取之其亦布衣以下之人



以人多物在形



Faint, illegible handwritten text in seal script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

